No. 19
令和３年３月発行

北海道子ども読書応援団ニュース
ゆめ＊よみ

北海道教育庁生涯学習推進局
生涯学習課読書推進係
TEL：０１１－２０４－５９９４
FAX：０１１－２３２－２２３６

令和２年度　地域人材との連携による子どもの読書活動推進事業

＜事業の概要＞（北海道教育庁生涯学習課では平成30年度から３年間にわたって実施しています。）

(1)　事業の趣旨・目的

・地域における子どもの読書活動の推進に関わる人材が会する読書活動活性化フォーラムを開催し、地域全体の読書環境の整備及び子どもの読書活動の活性化に資する

・学校と市町村立図書館とが連携して、学校図書館の環境整備や学校図書館を活用した授業実践などを計画的・継続的に取り組むための体制づくりを行うことを通じて、学校図書館を活用した授業の充実など、学校図書館の効果的な活用に資する

(2)　事業の主な内容

①指定校・指定館の取組

・学校と市町村立図書館が連携して、道内14管内の小・中学校（指定校）、市町村立図書館（指定館）が学校図書館を活用した授業づくりや読書活動、学校図書館の環境整備、地域のボランティアとの連携した読書活動などの取組を推進

②読書活動活性化フォーラム

・道内を空知、日高、宗谷、十勝の４ブロックに分け、オンラインで開催

・小中学校の学校図書館担当教職員、市町村教育委員会職員、市町村立図書館等職員、学校図書館ボランティアなどが参加し、地域全体での読書活動の推進や指定校と指定図書館が連携した取組について交流・協議

・参加者の感想は、「公立図書館との連携の仕方や学校図書館の活用方法についての具体を知ることができた」、「学校、公立図書館、読み聞かせボランティアも『子どもたちに読書を楽しんでもらいたい』という思いを共有しながら活動している熱量に感銘を受けた」など

本事業での成果を生かしながら、今後も道内の様々な方々と連携し、子どもの読書活動の充実に取り組んでいきたいと考えていますので、御協力をよろしくお願いします。

各地の子ども読書応援団の取り組み紹介

「子どもたちの笑顔を糧に、これからも」
函館朗読奉仕会「ピッコロ」（函館市）

平成７年に「函館朗読奉仕会」の有志が中心となり、「ピッコロ」として読み聞かせグループが設立されました。現在は12名で活動しています。定期的に函館市中央図書館で読み聞かせを行っているほか、認定こども園や児童館、大人向けにデイケア施設など、様々な場所で活動しています。

「ピッコロ」では月に一度の勉強会を実施しています。読み聞かせの基本をしっかり身に付けるとともに、手遊びやクイズ等を取り入れ、子どもたち（大人も）を飽きさせない工夫について勉強しています。

代表の室田美保子さんは、「読み聞かせに参加してくれた親子には、とにかく楽しかったと感じて帰ってもらいたいのです。まずは絵本の楽しさを知ってもらうことが大切です。そうすれば自然に読書が大好きな子どもに育つと思っています。だから、読み聞かせの場では教育的な意図をもちすぎないように、とにかく楽しく、楽しくと心掛けています。」と語っていました。

「ピッコロ」は各種イベントにも積極的に協力しています。「特に印象に残っているのは、市内の特別支援学校からの依頼で読み聞かせを行った時のことです。目を輝かせて身を乗り出して聞き入る子どもたちの、真剣な姿に感動しつつ、大切なことを教えられた思いでした。」と振り返ります。

室田さんは「例え相手が赤ちゃんでも大人でも、読む絵本が単純な言葉のものであったとしても、聞く人に伝わる朗読の技術をおろそかにしない。そして楽しく！今後も子どもたちの笑顔を糧に活動していきたい。」と力強く抱負を話していました。

函館市中央図書館「おはなしのへや」での活動

「子どもたちの喜ぶ顔がうれしい！」
読み聞かせの会「ひまわり」（むかわ町穂別地区）

読み聞かせの会「ひまわり」は、昭和55年に地域の女性の方々が中心となって結成した団体です。当時から町民センターや図書館でお話し会を行い、平成６年から町内の小学校でも定期的に読み聞かせを実施しています。

現在、会員は６名在籍しており、穂別小学校での週２回、学年に応じた図書を選書し、朝読書の時間等を活用しながら読み聞かせを実施しています。朝の始業前10分間ですが、短い時間でも子どもたちに会えるのを何よりの楽しみにしています。

小学校での読み聞かせの様子

毎年12月に開催している「クリスマス会」では、絵本の読み聞かせや素話、手品や人形劇などを行い、参加者に手作りのクリスマスカードを手渡すことを結成以来続けています。また、保育園や子育て支援センターから、恐竜イベント等の依頼があれば積極的に出向き、むかわ町で発見された恐竜化石を題材にした人形劇や紙芝居を行うなど、子どもたちが本に興味や関心をもてるよう、活動を工夫しています。

会員の方々は「子どもたちにたくさんの本を届け、楽しい本を伝えたいという思いを大切にしながら、子どもたちの喜ぶ顔を活動の原動力に読書活動を続けていきたい」と今後の活動への抱負を語っていました。

「子どもに絵本、読書の喜びを」
絵本サークル ポポリン（江差町）

「絵本サークル ポポリン」は、江差町教育委員会主催の「絵本・児童文学講座」の受講者たちによって平成元年に結成し、現在10名の会員で活動しています。

町立図書館を中心に活動し、町内外の保育園・幼稚園・小学校などにおいて読み聞かせやブックトークなどを行っているほか、町や町教委と連携し、「両親学級」や「ブックスタート」などの運営にも参画し、地域における読書活動推進の一翼を担っています。

また、会員相互による学習を重視しており、月に２回実施している学習会においては、絵本の内容や言葉の豊かさなどについて深い理解ができるよう研さんを重ねることで、会員の知識・技能の向上に努めており、その成果を活動に生かしています。

文部科学大臣表彰伝達式の様子

そのような地域に根ざした活動や地道な取組が高く評価され、今年度は文部科学大臣表彰「子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）」を受賞しました。

これからの活動について、代表の室谷恵美子さんは、「今後も絵本の楽しさを地域の子どもたちに伝える活動を通して、地域住民がこのまちに住んで良かったと思えるまちづくりに寄与したい。」と、思いを語っていました。

「子どもたちに、そして大人にも本の素晴らしさを伝えたい」
読み聞かせボランティア「ぐぅ・ちょき・ぱぁ」（遠別町）

読み聞かせボランティア「ぐぅ・ちょき・ぱぁ」は、平成17年に当時幼児をもつ親として読み聞かせを聞く側だった保護者たちが、読む側の立場としても活動を共に楽しみたいという思いで設立されました。現在は、「本が好き」、「子どもたちに本の面白さを伝えたい」という思いの方々が集まり、８名が会員に登録しています。

今年度はコロナ禍により活動できていませんが、例年は月１回の認定こども園と小学校での読み聞かせ、年２回の小学校第１学年、第２学年国語科の授業協力、町文化祭での読み聞かせの活動をしています。

また、「ぐう・ちょき・ぱぁ」では子どもたちが絵本をより楽しめるよう、ロールシアターやパネルシアターを自作しています。会員が協力して１つにつき２～３ヶ月かけて制作した作品を数多く所有し、大切に保管しながら活用しています。これらを使った読み聞かせは、絵の動きや子どもの参加方法を工夫しながら演じており、子どもたちに大変喜ばれています。

会員から「子どもたちの真剣に聞いてくれるまなざしがうれしく、この活動ができて幸せだと思う」と活動を通しての充実感を話してくれました。

また、「子どもに関わる大人が本を好きであることが大事だと思う。今後は、大人向けの読み聞かせをしたい。」、「本は想像力などを鍛える大切なもの、勉強だけでは得られない良さを伝えていきたい。」など、活動への思いを熱く語っていました。

町文化祭「おはなし会」の様子と手作りロールシアター

「子どもたちの心に残る１冊を」
読み聞かせサークル「まつぼっくり」（別海町）

読み聞かせサークル「まつぼっくり」は、我が子の通う学校の子どもたちに、読み聞かせを通じて本に出会える環境を作りたいという思いから、別海中央小学校の保護者有志で設立されました。今年で19年目を迎え、現在15名で活動しています。

月１回の全校一斉朝読書には、各学級の教室に１名ずつ会員が入り、絵本の読み聞かせや手あそびなどを行っています。長年にわたる取組により、平成26年度には「根室管内教育実践表彰」を受賞しました。今では、「まつぼっくり」の活動が町内の他校にも広がり、地区によっては幼稚園から中学校まで継続した読み聞かせの活動が展開されています。

「月１回の読み聞かせで出会う年間12冊の絵本のすべてが記憶に残らなくても、子どもたちが将来我が子に読んで聞かせたいと思えるような１冊に出会えれば幸せです。」と、代表の岡本裕美さんが話していました。前代表から引き継いだ取組を、町立図書館や学校と連携しながら継続、発展させています。

小学校での読み聞かせの様子

「子どもたちに本の楽しさと笑顔を届けたい」「十二月文庫」（島牧村）

「子どもたちや地域の人たちに『じゆうに』本を読んでもらいたい」との思いから、平成29年（2017年）12月に私設図書館「十二月文庫」を長岡沙希さんが開設しました。手作りの書架に約3,000冊の図書を設置し、誰もが気軽に本とふれ合える場を提供しています。

臨時休校となった昨年の春、子どもたちに読書機会を提供しようと、移動図書を有志とともに実施し、子どもたちが住む村内各地区を回り、本を貸し出しました。長岡さんは、本を手に取った子どもたちに、一冊一冊の良さを語りかけ、子どもたちの本への興味を引き出していました。子どもたちは、本を積んだ車が家の近くまで来ることに喜びを感じ、「来てもらえて良かった。」、「ありがとう。」と、感謝の言葉を口にしながらお気に入りの本を見付けていました。

また、島牧村放課後児童クラブにおいても、本の楽しさを伝えたり、読み聞かせをしたりする活動を行っています。長岡さんは、「心の奥深くにまでしみていった本の記憶が、いつまでも子どもたちを温め続けますように。」と活動の思いを語ってくれました。

今後も、本に対する思いや本の良さを地域の人たちと共有し、子どもたちの読書活動がより豊かなものになるよう、長岡さんたちの活動は続いていきます。

移動図書館の様子

「多岐にわたる活動をとおして地域の読書活動を推進」リーディング倶楽部たんぽぽ（湧別町）

「リーディング倶楽部たんぽぽ」は、町広報誌の音訳ボランティアをきっかけに平成９年に発足しました。平成14年から絵本の読み聞かせ活動を開始し、現在は９名の会員で、絵本の魅力を多くの町民に届けようと多岐にわたる活動に取り組んでいます。

【活動内容】

○ 毎週水曜日、湧別小学校にて絵本読み聞かせ
○ 読み聞かせした絵本の記録誌を作成し児童に配布
○ 毎月、乳幼児健診において絵本読み聞かせ
○ 毎週水曜日、図書館で本の修繕作業
○ 布絵本やエプロンシアターを作成し図書館に寄贈
○ 古本市など図書館事業に協力
○ 年１回、フリーマーケットの資金で湧別小学校図書館に本を寄贈
○ 年に数回、子育て支援センター、児童センター、老人サロンにて絵本読み聞かせ

今年度も小学校での読み聞かせを実施

長年にわたり絵本の楽しさを広め、地域文化の向上に貢献していることが評価され、今年度、優良読書グループ全国表彰を受賞しました。

代表の小松さんは、「絵本は、短い話の中にいろいろなことが詰まっている。また、同じ絵本でも、子どものときと大人になったとき、子どもができ親になったときとでは感じることも変わってくる。そのため、多くの方に絵本に接する機会を提供していきたい。」と活動への思いを話していました。